

## 令和6年度 学校経営方針

校訓に沿って教育目標の具現化を図っていくために、以下のとおり、学校経営方針を定めます。

**「個が生きる」 この一心で学校経営を行います。**

「生徒の成長のために」「教職員がやりがいを感じる職場づくりのために」「梅香崎中学校が保護者や地域の期待に十分に答える学校となるために」、この目的意識を失うことなく学校経営にあたります。生徒、職員、学校の特長が活かされ、「個が生きる梅香崎中学校」を目指します。「オンリー1」を大切にした学校の経営を行います。

**願いを一つに揃えるため、教育活動の指針は校訓、到達すべきは教育目標とします。**

新しく定める校訓「自主・協同・創造」を指針に、「主体的に行動し、気づく目・感じる心を持ちながら、夢の実現に向かう生徒の育成」という教育目標の達成に向かいます。具現化のための方策は、トップダウン、ミドルアップ・ダウン、ボトムアップの三つの方向から示され、「チーム梅香崎」の組織力を生かした展開が図られるよう努力します。

**夢や理想を語り、その追求を続ける一人一人であることを目指します。**

学校は生徒の夢の実現、目標の達成を応援するところです。そのため、私たち教師も夢や理想を語り、絶えず追求し続けるところであってほしいと願います。予測困難な時代にあっても理想を追求し、構想・計画する、その成果として残せた生徒の姿、学校の姿に感動することを求めたいと思います。「できる・できる・できる」と生徒を励まし、生徒の気持ちを高めるプロ集団になることを目指します。

**R・V・P・D・C・Aのマネジメントサイクルによる学校経営を行います。**

効果的な学校経営のため、R (research)・V (vision)・P (plan)・D (do)・C (check)・A (action) のマネジメントサイクルを大切にします。「梅香崎中だからこそ」「この学年、学級だからこそ」「この生徒だからこそ」のオンリー1、個が生きるためのマネジメントを目指します。P・D・C・Aの前のR・V、「実態把握」と「見通し」を確実に行います。十分な実態把握なしに計画、実行を行わないように留意します。

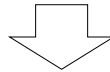
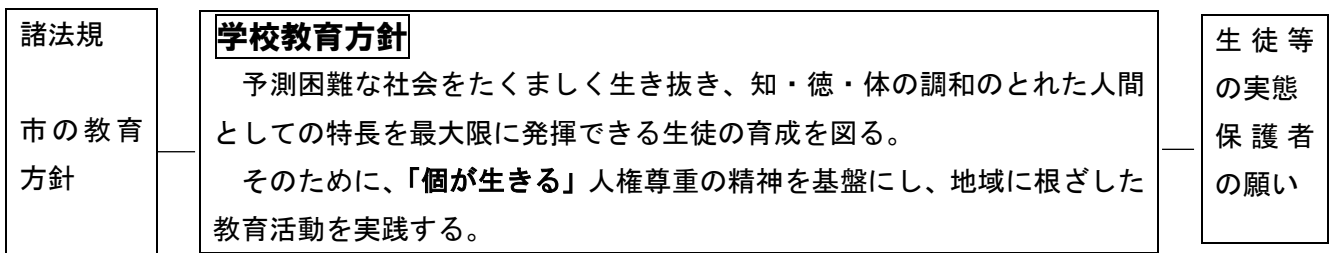
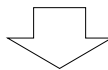
# 令和6年度 学校教育の基本方針

長崎市第五次総合計画（令和4年度～令和12年度）

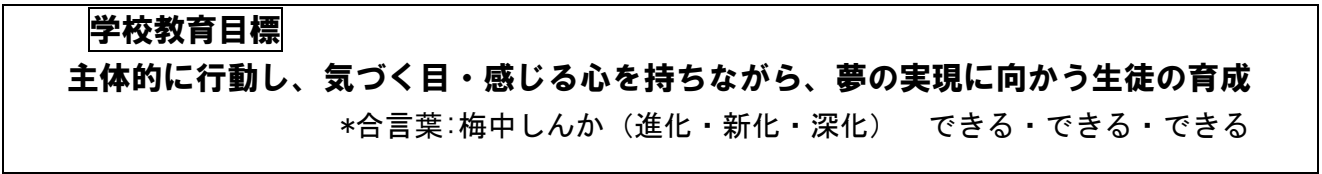
【基本施策】G1「長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます」

【めざす姿】Society5.0時代を生きる子どもたちに必要な情報活用能力を育成します。

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 【個別施策】G1-1 確かな学力の向上 | G1-2 健やかな心と体の育成    |
| G1-3 学校・家庭・地域の連携    | G1-4 安全・安心に学べる教育環境 |



**校訓** “自主、” “協同、” “創造、”



教育活動の指針は校訓、到達すべきは教育目標。校訓を中心に据えた教育活動の展開



令和6年度重点目標（校訓に沿った「めざす生徒像」）		
【自主】	【協同】	【創造】
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の役割を果たせる生徒</li> <li>○献身的に動ける生徒</li> <li>○自分の考えを表現できる生徒</li> <li>●自分事として捉え動ける生徒</li> <li>●自分を律することができる生徒</li> <li>●自信をもって動ける生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気持ちのいいあいさつができる生徒</li> <li>○周りに手を差し伸べられる生徒</li> <li>○みんなのために動ける生徒</li> <li>●集団の絆を大切にできる生徒</li> <li>●仲間の意見を尊重しながら自分の考えを深められる生徒</li> <li>●相手の立場に立って動ける生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夢を描き目標を立てられる生徒</li> <li>○夢や目標を堂々と語る生徒</li> <li>○地域と母校を大切に誇りをもつ生徒</li> <li>●新たなアイデアを創出できる生徒</li> <li>●夢の実現のために努力できる生徒</li> <li>●見通しをもって行動できる生徒</li> </ul>

## 令和6年度 校訓に沿って学校教育目標の達成をねらうための重点取組事項

### 1 学習の習慣化と学力の向上

#### (1) 校訓に沿った授業改善の推進

##### ①R・V・P・D・C・Aマネジメントサイクルの重視

- ・国、県、市、学校の学力検査を活用した学校改善、授業改善
- ・重点課題を改善するための「授業研究」の推進  
重点課題：「自分の考えの根拠を明確にして表現すること」

##### ②校訓とアクティブラーニングを重ねた授業改善の推進

- ・授業づくりのものさしの共通理解と協働実践
- ・重点課題を改善するための「授業研究」の推進

##### ③自立した学び手の育成を図る授業改善の推進と家庭学習との連動

- ・生徒の計画力、修正力を高めるために年間指導計画、学習計画表を活用した協働実践  
重点課題：「学びに向かう力、学びを修正する力の向上」

#### (2) 個に応じた指導、特別支援教育の充実

- ・特別な支援が必要な生徒に対する指導の充実を図るための計画の作成と更新
- ・個に応じた指導の充実を図るために全職員による指導体制、学習環境の工夫
- ・GIGAスクール構想に沿ったICT機器を有効に活用した授業の展開

#### (3) 学力向上に有効な教育課程の編成

- ・国、県、市の学力検査、校内テストと学校行事の調整等、学力向上に有効な教育課程の編成
- ・スキルタイム、自主活動等、諸活動の帯時間の工夫
- ・AIドリルを有効に活用した個に応じた指導の工夫

#### (4) 求めて学ぶ態度の育成と家庭での自主学習の指導の充実

- ・学習規律「梅・うめ スタンダード」の徹底
- ・『自主学習の手引き』の活用による主体的な学習の展開と家庭学習との連動

### 2 生徒指導の充実

#### (1) 校訓に沿った生徒像に向かわせる指導の充実

- ・強みを伸ばし、弱みを改善するための具体的方策の検討と協働実践
- ・生徒が自己の課題と真剣に向き合うための生徒活動、「学級・学年の日」の充実  
重点課題：「  
」\*4月1日に決定

#### (2) 生徒指導諸問題に迅速かつ適切に対応するための協働体制の確立

- ・報告・連絡・相談の徹底（担任→学年係→学年主任→生徒指導主事→教頭→校長）
- ・いじめ対策委員会による組織的な対応（いじめの認知と対応策はいじめ対策委員会で）

- (3) 「個が生きる」人権教育の推進
  - ・自己肯定感を高める人権学習の有効な展開
  - ・職員の人権教育研修の機会の充実と人権感覚チェックシートによる自己点検
- (4) 職業的・社会的自立を育むキャリア教育の充実
  - ・キャリア教育全体計画、育成をめざす資質・能力に沿った有効な展開
  - ・生徒の夢や目標を応援するキャッチフレーズの設定と働きかけ

**【梅中しんか（進化・新化・深化） できる・できる・できる】**
- (5) 道徳的判断力、実践力を高める道徳教育の充実
  - ・学習指導要領の趣旨に添った授業改善
  - ・道徳の実践力、判断力等を高めるための評価の充実
- (6) 平和を創る人を育てる平和教育の充実
  - ・『平和教育手引き書』『平和ナガサキ』を活用して「平和追求を自分ごととしてとらえさせる」対話型授業、被爆体験講話の創造と検証
- (7) 情報モラルを高める教育の充実
  - ・『SNSノートながさき』等を活用した計画的、効果的な情報モラル教育の展開

### **3 健康・安全教育の推進**

- (1) 校訓に沿った生徒像に向かわせる指導の充実
  - ・自主性・協働性・創造力を育む部活動を推進するための指導体制の確立（指導方針、目標、顧問・外部コーチ・保護者の役割の明確化）
- (2) 学校内外の安全教育と指導の充実
  - ・生徒の危機予測能力を高める安全教育、防災教育の推進

### **4 教育環境の充実**

- (1) 豊かな心を育む環境づくり
  - ・心安らぐ教育環境の整備
- (2) 校内美化活動の推進
  - ・心を磨く時間と捉えさせる清掃指導の充実
- (3) 安全・安心な教育環境の整備
  - ・安全点検の実施と点検結果に基づく迅速な対応

### **5 職員研修の充実**

- (1) 校内研修の充実
  - ・学力向上を中心に据えた研修の充実「授業研究・自主学習・スキルタイムの充実」
  - ・理論研究に終わらない実践研究の充実
- (2) 授業を磨き合う集団としての体制づくり

- ・チームによる授業づくりと検証の推進(年2回の協働授業実践、各自1回の研究授業)
- ・小・中連携による学力向上の取組

### (3) 現職教育の工夫

- ・実態や状況に対応した現職教育の推進

## 6 地域と連携した教育体制の確立

### (1) 地域に開かれた学校教育の推進

- ・学校教育の情報の発信、保護者、地域住民との情報の共有
- ・校訓追求評価、学校評価を検証軸においた教育の成果と課題の共有

### (2) P T A活動の充実

- ・生徒の成長を中心に据えた持続可能なP T A活動の充実
- ・様々な活動を通じた学校、家庭、地域の信頼関係の構築

### (3) 未来社会を築くための地域との連携

- ・「明日の大浦を考える会」と総合的な学習の時間の単元「地域学習」との連動

## 7 職員の働き方改革の推進

### (1) 新たな人事評価制度を活用し業務の優先順位を定めた効率的な展開

- ・重点的に取り組むべきことと、軽減することの見極め
- ・業務のビルドとスクラップの見極め
- ・引継ぎ書やマニュアルを活用した計画的・効率的な業務の推進

### (2) 計画的・効率的な事務処理

- ・提出、完了期限にゆとりをもたせた各分掌チーフからの計画の提示と予告
- ・全体への1週間前に事務を完了させる事務計画の推奨

### (3) 残業時間の適正化(残業時間を年間540時間内(原則、月45時間内)に徹底)

- ・毎週水曜日は全部活一斉のノー部活動デーを実施、プラス土日いずれか1日のノー部活動デーの実施(複数顧問体制による指導・管理・監督の分任)
- ・毎週水曜日の全職員一斉のノー残業デー、プラス平日1日の個人別ノー残業デーの実施と徹底を図るための一覧表の掲示と職員相互の声かけ運動等の推進
- ・計画的な業務の推進に向けた意識の高揚や、業務の推進状況に合わせて早出と残業を可能にする職場環境づくり、教頭の働き方改革を応援する体制づくり

※職員玄関をオートロック方式にし、最初に出勤した職員が校舎の開錠と警備会社に警備解除の指示、最後に退勤する職員が警備会社に警備開始の指示と校舎の施錠を行う。各教室等の異常と戸締りの確認は、各箇所の防災管理責任者が行うが、開錠者と施錠者も必ず確認する。なお、早出と部活動指導後の残業についても月45時間を超えないための自己管理を徹底する。また、管理職員は、生徒の登校時刻と下校時刻に合わせ、7:15までに出勤、部活動生の完全下校15分後に退勤する。

- ・ 欠席連絡システムの tetolu の導入、平日の勤務時間外や休日の保護者からの緊急連絡に対応する G メール の導入、臨時休校等のお知らせを緊急に行うための安全・安心メールの導入、メッセージ付き（留守番機能なし）電話機設置（電話対応時間 8:00～17:00）等による電話対応の負担軽減

(4) 生徒の自治能力を高め、職員の休憩時間を確保する体制づくり

[職員別に休憩時間を設定]

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| ・ 通常学級担任、特別支援学級担任・副担任、ALT | 13:10～13:55             |
| ・ 副担任                     | 12:50～13:10、13:30～13:55 |
| ・ 養護教諭、事務職員、庁務員、特別支援教育支援員 | 12:45～13:30             |
| ・ 学校図書館司書                 | 12:10～13:10             |
| ・ 配膳員、代替配膳員               | 11:50～12:20             |

令和6年度  
校訓「自主・協同・創造」に沿った授業改善  
～授業づくりのものさし～

**【自主】** 自ら求めて学ぶ生徒の育成

- 本単元（題材）、本時のねらいの明確にする（めあてを自覚する）
- 学習の見通しをもたせる
- 主体的な学習の展開を生む導入、各過程での的確な教示、助言を行う  
（自力解決、自力でめあてに到達する）
- \*単元（題材）、本時の導入時、生徒にゴールを自覚できる単元名の工夫と提示
- 本時の評価を確実にいき、次なる到達、改善に向かわせる
- \*自己評価による学びに向かう力、自己修正能力の向上
- 授業時の主体的な学習の展開と家庭学習を連動させて学力を定着させる
- \*学習計画表と『自主学習の手引き書』を活用による学びに向かう力、自己修正能力の向上

**【協同】** 協同し高め合う生徒の育成

- 互いの意見、考えを大切にすする支持的風土を築く
- 対話により互いの考え、意見を交流し解決に向かわせる
- \*失敗を恐れない、失敗を笑わないように指導することを徹底
- \*互いの考えや意見を交流させる言語活動の充実
- 建設的な話し合い、相手を説得する討論等、様々な話し合い活動を展開させる  
（司会者の役割、提案者、聴者・評価者の立場で展開できる）
- 自身の得意分野を教え合う学習で各自の特長を伸ばす
- 課題の設定、情報の収集・分析、まとめ、発信などを級友と協働して活動させる

**【創造】** 思考し判断し表現し目標の達成に向かう生徒の育成

- 自分の考えや意見の根拠を明らかにして表現させる
- \*「なぜ」「どうして」の問いを大切にすした指導の展開と言語活動の充実
- 友達の考えや情報（人・物・こと）に出会い、新たなものを創造させる
- \*「違う見方や考えはないか」「友達の考えや意見を聞いてどう思ったか」といった問いを大切にすした指導の展開
- 身に付けた知識・技能を様々な場面で活用させる
- 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を高める
- \*「書くこと」を通して、思考を深め、表現力を高める  
（特に、「書くこと」を通して言語活動を通して高める）
- ICT機器を活用して創造させ、思考力、判断力、表現力を高める